

みずほマーケット・トピック (2017 年 9 月 1 日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。本日発行の『中期為替相場見通し』をご参照下さい。

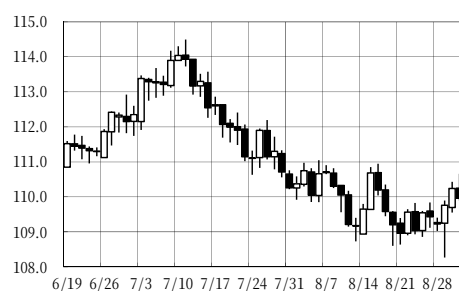
1. 為替相場の動向 (関連レポート: 「みずほ Customer Desk Report」、 「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は週後半に上値を切り上げる展開。週初 8 月 28 日に 109 円台前半でオープンしたドル/円は、週末の大型ハリケーン「ハービー」が米国経済に与える影響が懸念される中、じりじりと値を下げた。その後はロンドン休場のため薄商いとなったため、狭いレンジ内で推移。29 日は北朝鮮がミサイルを発射し、日本上空を通過したというヘッドラインを受けて円買いの動きが強まるとドル/円は 108 円台前半まで急落。年初来安値 (108.13 円) には届かず、ショートカバーが意識されたことなどから一旦 108 円台後半まで戻したが、ユーロ/ドルが 1.20 を上抜け急伸する展開にドル/円は一時週安値となる 108.27 円をつけた。もっとも、その後は米 8 月消費者信頼感指数が予想を上回ったことなどが材料視される中、ドル買い戻しが優勢となり 109 円台後半まで買い戻された。30 日は北朝鮮情勢に対する警戒感が後退した上、米 8 月 ADP 雇用統計が予想を上回り、米 4~6 月期 GDP (2 次速報値) も 1 次速報値から上方修正されると 110 円台前半まで続伸。31 日は日経平均株価の続伸に連れ週高値となる 110.67 円をつけた。だが、米 7 月中古住宅販売契約が予想を大きく下回ったほか、ムニューシン米財務長官が「貿易の観点からドル安は米国にとって多少有益」と述べたことを受け、ドル/円は 110 円を割れる展開に。本日は反発し 110 円挟みで推移している。
- 今週のユーロ/ドル相場は上下に激しい値動きとなった。週初 8 月 28 日に 1.19 台半ばでオープンしたユーロ/ドルは 1.19 台前半まで値を下げた。その後は前週末にドラギ ECB 総裁がユーロ高をけん制しなかったことなどが意識される中、米金利が低下したことで 1.19 台後半まで反発した。1.20 を目前にして上値を重くしたが、29 日はハリケーン「ハービー」の影響が懸念される中でドルが売られ、ユーロ/ドルは 1.20 を上抜けると一時週高値となる 1.2070 まで急伸し、2015 年 1 月以来の高値をつけた。しかし、米 8 月消費者信頼感指数が予想を上回るとドル買い戻しの動きが強まり 1.19 台半ばまで軟化した。30 日はドル買いの流れが継続し 1.19 台前半まで下落。さらに米 8 月 ADP 雇用統計や米 4~6 月期 GDP (2 次速報値) が予想を上回る結果を受けて、1.18 台後半まで続落した。31 日は ECB 内でユーロ高を懸念する声が増えているとの報道を受け、週安値となる 1.1823 まで売り進められた。しかしながら、ムニューシン財務長官のドル安容認とも受け取れる発言を背景に 1.19 近辺まで反発すると、本日も同水準で底堅い値動きが続いている。

今週のおもな金融市場動向 (出所: ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末 8/25(Fri)	今 週			
		8/25(Fri)	8/28(Mon)	8/29(Tue)	8/30(Wed)	8/31(Thu)
ドル/円	東京9:00	109.53	109.34	108.72	109.77	110.47
	High	109.85	109.41	109.91	110.44	110.67
	Low	109.11	109.03	108.27	109.55	109.88
	NY 17:00	109.43	109.27	109.76	110.24	109.97
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1798	1.1952	1.1965	1.1970	1.1891
	High	1.1941	1.1984	1.2070	1.1985	1.1912
	Low	1.1774	1.1918	1.1946	1.1880	1.1823
	NY 17:00	1.1918	1.1979	1.1973	1.1885	1.1909
ユーロ/円	東京9:00	129.21	130.71	130.10	131.41	131.34
	High	130.43	130.96	131.61	131.70	131.58
	Low	129.13	129.99	129.66	130.98	130.70
	NY 17:00	130.35	130.87	131.42	131.01	130.93
日経平均株価		19,452.61	19,449.90	19,362.55	19,506.54	19,646.24
TOPIX		1,596.99	1,600.12	1,597.76	1,607.65	1,617.41
NYダウ工業株30種平均		21,813.67	21,808.40	21,865.37	21,892.43	21,948.10
NASDAQ		6,265.64	6,283.02	6,301.89	6,368.31	6,428.66
日本10年債		0.02%	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%
米国10年債		2.17%	2.16%	2.13%	2.13%	2.12%
原油価格 (WTI)		47.87	46.57	46.44	45.96	47.23
金 (NY)		1,291.37	1,308.35	1,309.27	1,308.64	1,321.40

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・来週、欧州では 7 日(木)の ECB 政策理事会に注目が集まる。焦点となるのは、拡大資産購入プログラム (APP) の段階的な縮小 (テーパリング) の取り扱いだが、ドラギ ECB 総裁は 7 月会合後の会見で秋 (今会合) に議論することを認めている。もっとも、7 月会合の議事要旨で既にユーロ高への懸念が示されて、一時ユーロ/ドルが節目の 1.20 を突破するなどその後もユーロの上昇が続く中で当局者は懸念を強めており、関係筋の話として「為替レートがより大きな問題になった。今や出口が好ましいとの見方は後退しており、何とかやっという選択肢への議論が強まっている」との発言が報じられている。12 月末に期限を迎える APP は技術制約もあり何らかの縮小的修正は不可欠と見られ、9 月会合では 10 月 26 日の政策理事会でのテーパリング決定を視野に技術的な選択肢について内部の専門委員会に調査を進めるよう指示を下すなどのアクションが想定される。だが、正常化がユーロ相場の続伸を招く可能性は高く、物価への下押しを含めて今後小さくない問題になってくるのは目に見えている。かかる状況下、テーパリングと言えども、果たして APP の廃止まで視野に入れた対応になるのかは微妙であり、縮小の上で延長という落とし所も考えられよう。
- ・米国では、今晚に 8 月雇用統計の発表があり、非農業部門雇用者数 (NFP) が前月比+18.0 万人 (7 月:同+20.9 万人) と増加ペースが減速する見通しだ。失業率に関しては 4.3%と横ばい、非農業部門の週平均労働時間も 6 月の 34.5 時間から横ばいとなる見込みで、時間当たり平均賃金は前月比+0.2%と伸びが鈍化すると予想されている。同日には 8 月 ISM 製造業景気指数の発表があり、各地区連銀の製造業指数はまちまちではあるものの、市場では 56.5 と 7 月の 56.3 から小幅に改善する見通しである。金融政策に関しては、6 日(水)に次回 FOMC (9 月 19~20 日開催)での討議資料となるページブックが公表されるほか、5 日(火)にブレインード FRB 理事とカシュカリ・ミネアポリス連銀総裁の講演がある。このほかにも、6 日(水)にカプラン・ダラス連銀総裁、8 日(金)にはメスター・クリーブランド連銀総裁、ダドリーNY 連銀総裁、ハーカー・フィラデルフィア連銀総裁が相次いで講演を行う予定である。

	本 邦	海 外
9 月 1 日 (金)	・8 月自動車販売台数	・ユーロ圏 8 月製造業 PMI (確報) ・米 8 月雇用統計 ・米 8 月 ISM 製造業景気指数 ・米 8 月ミシガン大学消費者マインド指数 (確報) ・米 7 月建設支出
4 日 (月)	・8 月マネタリーベース	-----
5 日 (火)	-----	・ユーロ圏 4~6 月期 GDP (確報) ・米 8 月労働市場情勢指数 ・米 7 月製造業新規受注 ・米 7 月耐久財受注 (確報)
6 日 (水)	・7 月毎月勤労統計	・独 7 月製造業受注 ・米 7 月貿易収支 ・米 8 月 ISM 非製造業景気指数 ・ページブック
7 日 (木)	・7 月景気動向指数 (速報)	・独 7 月鉱工業生産 ・ECB 政策理事会
8 日 (金)	・7 月国際収支 ・4~6 月期 GDP (2 次速報) ・8 月貸出・預金動向 ・8 月景気ウォッチャー調査	・独 7 月貿易収支 ・米 7 月卸売売上高 ・米 7 月消費者信用残高

【当面の主要行事日程 (2017 年 8 月~)】

米 FOMC (9 月 19~20 日、10 月 31 日~11 月 1 日、12 月 12~13 日)
 ECB 政策理事会 (9 月 7 日、10 月 26 日、12 月 14 日)
 日銀金融政策決定会合 (9 月 20~21 日、10 月 30~31 日、12 月 20~21 日)
 ドイツ総選挙 (9 月 24 日)

国際為替部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌 大輔 (TEL: 03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー (2017年9月)

月	火	水	木	金	週末
				1 日本 自動車販売台数 (8月) ユーロ圏 製造業PMI (確報、8月) 米国 雇用統計 (8月) 米国 失業率 (8月) 米国 ISM製造業景気指数 (8月) 米国 ミシガン大学消費者マインド (確報、8月) 米国 建設支出 (7月)	
4 日本 マネタリーベース (8月)	5 ユーロ圏 サービス業PMI (確報、8月) ユーロ圏 GDP (確報、4～6月期) 米国 労働市場情勢指数 (8月) 米国 製造業新規受注 (7月) 米国 耐久財受注 (確報、7月)	6 日本 毎月勤労統計 (7月) ドイツ 製造業受注 (7月) 米国 貿易収支 (7月) 米国 ISM非製造業景気指数 (8月) 米国 ページュブック	7 日本 景気動向指数 (速報、7月) ドイツ 鉱工業生産 (7月) ユーロ圏 ECB理事会 (フランクフルト)	8 日本 国際収支 (7月) 日本 GDP (確報、4～6月期) 日本 貸出・預金動向 (8月) 日本 景気ウォッチャー調査 (8月) ドイツ 貿易収支 (7月) 米国 卸売売上高 (7月) 米国 消費者信用残高 (7月)	
11 日本 機械受注 (7月) 日本 マネーストック (8月) 日本 第三次産業活動指数 (7月)	12 日本 国内企業物価 (8月)	13 ドイツ 消費者物価 (確報、8月) ユーロ圏 鉱工業生産 (7月) 米国 生産者物価 (8月) 米国 財政収支 (8月)	14 日本 鉱工業生産 (確報、7月) 米国 消費者物価 (8月)	15 ユーロ圏 貿易収支 (7月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数 (9月) 米国 小売売上高 (8月) 米国 鉱工業生産 (8月) 米国 ミシガン大学消費者マインド (速報、9月) 米国 企業在庫 (7月)	
18 日本 敬老の日 ユーロ圏 消費者物価指数 (確報、8月) 米国 TICレポート (対外対内証券投資) (7月)	19 ユーロ圏 経常収支 (7月) ドイツ ZEW景況指数 (9月) 米国 住宅着工 (8月) 米国 FOMC (～20日)	20 日本 貿易収支 (8月) 日本 日銀金融政策決定会合 (～21日) 米国 中古住宅販売 (8月)	21 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数 (9月) 米国 景気先行指数 (8月)	22 ユーロ圏 製造業PMI (速報、9月) ユーロ圏 サービス業PMI (速報、9月)	24 フランス 上院議会選挙 ドイツ 連邦議会選挙
25 日本 景気動向指数 (確報、7月) ドイツ IFO企業景況指数 (9月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数 (8月)	26 日本 企業向けサービス価格 (8月) 米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格 (7月) 米国 新築住宅販売 (8月) 米国 消費者信頼感指数 (9月)	27 米国 耐久財受注 (速報、8月)	28 ドイツ 消費者物価 (速報、9月) 米国 GDP (3次速報、4～6月期) 米国 個人消費 (3次速報、4～6月期) 米国 PCEコアデフレーター (3次速報、4～6月期)	29 日本 失業率 (8月) 日本 家計調査 (8月) 日本 全国消費者物価 (8月) 日本 東京都区部消費者物価 (9月) 日本 鉱工業生産 (速報、8月) 日本 新設住宅着工 (8月) ユーロ圏 消費者物価指数 (速報、9月) 米国 ミシガン大学消費者マインド (確報、9月)	

[注] *を付したものは公表予定が未定であることを示す。
[資料] ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー (2017年10月)

月		火		水		木		金		週末	
2	日本 日銀短観 (7～9月期) 日本 自動車販売台数 (9月) ユーロ圏 製造業PMI (確報、9月) ユーロ圏 失業率 (8月) 米国 ISM製造業景気指数 (9月) 米国 建設支出 (8月)	3	日本 マネタリーベース (9月)	4	ユーロ圏 サービス業PMI (確報、9月) 米国 ADP雇用統計 (9月) 米国 ISM非製造業景気指数 (9月)	5	ユーロ圏 ECB理事会議事要旨 (9月7日開催分) 米国 貿易収支 (8月) 米国 製造業新規受注 (8月) 米国 耐久財受注 (確報、8月)	6	日本 毎月勤労統計 (8月) 日本 景気動向指数 (速報、8月) ドイツ 製造業受注 (8月) 雇用統計 (9月) 米国 失業率 (9月) 米国 卸売売上高 (8月) 米国 消費者信用残高 (8月)		
9	日本 体育の日 ドイツ 鉱工業生産 (8月)	10	日本 国際収支 (8月) 日本 景気ウォッチャー調査 (9月) ドイツ 貿易収支 (8月) ユーロ圏 財務相会合 (ルクセンブルク)	11	日本 機械受注 (8月) 米国 FOMC議事要旨 (9月19～20日開催分)	12	日本 貸出・預金動向 (9月) 日本 第三次産業活動指数 (8月) ユーロ圏 鉱工業生産 (8月) 米国 生産者物価 (9月) ワシントン (米国) G20財務相・中央銀行総裁会合 (～13日)	13	日本 国内企業物価 (9月) 日本 マネースtock (9月) ドイツ 消費者物価 (確報、9月) 米国 消費者物価 (9月) 米国 小売売上高 (9月) 米国 ミシガン大学消費者マインド (速報、10月) 米国 企業在庫 (8月)		
16	日本 鉱工業生産 (確報、8月) ユーロ圏 貿易収支 (8月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数 (10月)	17	ユーロ圏 消費者物価指数 (確報、9月) ドイツ ZEW景況指数 (10月) 米国 鉱工業生産 (9月) 米国 TICレポート (対外対内証券投資) (8月)	18	米国 住宅着工 (9月) 米国 ページュブック	19	日本 貿易収支 (9月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数 (10月) 米国 景気先行指数 (9月)	20	ユーロ圏 経常収支 (8月) 米国 中古住宅販売 (9月)		
23	日本 景気動向指数 (確報、8月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数 (9月)	24	ユーロ圏 製造業PMI (速報、10月) ユーロ圏 サービス業PMI (速報、10月)	25	ドイツ IFO企業景況指数 (10月) 米国 耐久財受注 (速報、9月) 米国 新築住宅販売 (9月)	26	日本 企業向けサービス価格 (9月) ユーロ圏 ECB理事会 (フランクフルト)	27	日本 全国消費者物価 (9月) 日本 東京都都区消費者物価 (10月) 米国 GDP (1次速報、7～9月期) 米国 個人消費 (1次速報、7～9月期) 米国 PCEコアデフレーター (1次速報、7～9月期) 米国 ミシガン大学消費者マインド (確報、10月)		
30	日本 日銀金融政策決定会合 (～31日) ドイツ 消費者物価 (速報、10月) 米国 個人消費・所得 (9月)	31	日本 失業率 (9月) 日本 家計調査 (9月) 日本 鉱工業生産 (速報、9月) 日本 新設住宅着工 (9月) ユーロ圏 失業率 (9月) ユーロ圏 GDP (1次速報、7～9月期) ユーロ圏 消費者物価指数 (速報、10月) 米国 雇用コスト (7～9月期) 米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格 (8月) 米国 消費者信頼感指数 (10月) 米国 FOMC (～11月1日)								

[注] *を付したものは公表予定が未定であることを示す。
[資料] ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2017年8月30日	メインシナリオへのリスク点検～急浮上してきた地政学リスク～
2017年8月29日	北朝鮮ミサイル発射と円急騰を受けて
2017年8月28日	ジャクソンホール講演～イエレン・ドラギ講演のレビュー～
2017年8月25日	週末版
2017年8月23日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年7月分)
2017年8月18日	週末版(ECB政策理事会議事要旨(7月20日開催分)～強まる為替への問題意識～)
2017年8月17日	FOMC議事要旨を受けて～疑われるフィリップス曲線～
2017年8月16日	17年上半期の対米証券投資～下半期に向けてのめどころ～
2017年8月15日	米インフレ期待の現状について～NY連銀消費者調査～
2017年8月14日	VIX急騰で断たれるキャリー取引の芽と不安な米株調整
2017年8月10日	週末版
2017年8月9日	2017年上半期の円の基礎的需給環境などについて
2017年8月8日	技術的難しさが極まるECBの量的緩和の現状
2017年8月7日	米7月雇用統計～加速しない賃金と伸び悩む「賃」～
2017年8月4日	週末版(ユーロ圏のフィリップス曲線の現状～フラット化して下方シフト～)
2017年8月3日	フォワードルッキングという幻想②～OECD景気先行指数を通じて～
2017年8月2日	フォワードルッキングという幻想～日銀議事要旨が示唆する戒め～
2017年8月1日	実効相場で考えるドル相場の現状～調整は始まったばかり～
2017年7月28日	週末版(メインシナリオへのリスク点検～新しいリスクは「安倍退陣」と「正常化ブーム」～)
2017年7月27日	FOMCを終えて～後任人事を見据えてハト派化も?～
2017年7月26日	ECB政策理事会の読み方～シントラ発言の火は消せず～
2017年7月25日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年6月分)
2017年7月21日	週末版(日銀金融政策決定会合を受けて～次の論点は外交的視点～)
2017年7月20日	最近のユーロ相場について～投機筋、PPP、金利差～
2017年7月19日	ECB政策理事会プレビュー～「火に油」を避けるべく・・・～
2017年7月14日	週末版(ドル/円相場の水準感について～現状の「異常さ」を見つめ直す～)
2017年7月13日	イエレン議会証言を受けて～花道的正常化は続く模様～
2017年7月12日	EU回帰でドイツは変わるのか?
2017年7月11日	正常化ブームの中で考えたい各国中銀の立ち位置
2017年7月10日	円相場の基礎的需給環境～円キャリーの兆候はあるか?～
2017年7月7日	週末版(ECB政策理事会議事要旨～ドラギ総裁はしじった模様～)
2017年7月6日	FOMC議事要旨～正常化は資産バブル対応?～
2017年7月5日	ECB版テーバー・タントラムの現状と展望
2017年7月4日	ドル安・円安の読み方～「正常化」ブームは流れを変えるのか～
2017年7月3日	都議選の影響を考える～新しいリスクの浮上～
2017年6月30日	週末版
2017年6月28日	ドラギ講演を受けて～「一時的」が流行る風潮の危うさ～
2017年6月27日	メインシナリオのリスク点検～引き続き目立つ円高材料～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年5月分)
2017年6月26日	ブラットECB理事発言を考える～影響力は侮れず～
2017年6月23日	週末版
2017年6月22日	対内・対外証券投資の近況～リセットされたトランプトレード～
2017年6月21日	カシュカリ・エッセイから学ぶこと～信仰(faith)とデータ(data)～
2017年6月19日	日銀金融政策決定会合～「座して円高を待つ」状況へ～
2017年6月16日	週末版
2017年6月15日	FOMCを終えて～「笛吹けど踊らず」の状況強まる～
2017年6月14日	ユーロ相場の本格反転に必要なもの
2017年6月13日	盛り上がらない米国のインフレ期待や与信環境について
2017年6月12日	ECB政策理事会～「露払い」としてのFG文言修正～
2017年6月9日	週末版(英総選挙を受けて～「不要なギャンブル」の成れの果て～)
2017年6月8日	英下院総選挙について～直前の論点整理～
2017年6月7日	110円割れで思うこと～変わり始めた欧米の論調～
2017年6月5日	日銀総資産500兆円突破を受けて～杞憂の出口議論～
2017年6月2日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～出口戦略の順序に変更なし～)
2017年6月1日	2016年末対外資産・負債残高統計～リスク回避の源泉～
2017年5月29日	メインシナリオのリスク点検～目立つ円高リスク～
2017年5月26日	週末版(本邦4月消費者物価指数(CPI)を受けて～依然、埋まらない日米物価格差～)
2017年5月25日	FOMC議事要旨を受けて～株価は耐えられるのか?～
2017年5月24日	相次いで弱体化するFRB高官～動揺する唯一の支え～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年4月分)
2017年5月23日	メルケル首相発言を受けて～異形のドイツがすべきこと～
2017年5月22日	ドル相場の現状認識～4月分REERの公表を受けて～
2017年5月19日	週末版
2017年5月17日	ドルインデックスの急落を受けて
2017年5月16日	ユーロ相場の現状について～投機買い持ちでも上がらず～
2017年5月15日	イタリアG7を終えて～「量」か「価格」か「説得」か～
2017年5月12日	週末版(欧州委員会春季経済予測を受けて～今後心配な「スラックの格差」～)
2017年5月11日	円相場の基礎的需給環境～様変わりする景色～
2017年5月10日	米インフレ期待低迷が映す米経済への過信
2017年5月9日	米商務省声明が予感させる「理不尽な円高」
2017年5月8日	フランス大統領選挙を受けて～おさらいすべきフランスの現状～
2017年4月28日	週末版(ECB理事会を終えて～「次の一手」は引き締めが濃厚～)
2017年4月27日	ECB理事会プレビュー②～フォワードガイダンス撤廃報道について～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年3月分)
2017年4月25日	メインシナリオのリスク点検～燦る「第二次ブラザ合意」疑惑～
2017年4月24日	フランス大統領選挙第1回投票～終わらない政治リスク～
2017年4月21日	週末版(ECB理事会プレビュー～争点はフォワードガイダンスの取り扱い～)
2017年4月20日	米金利低下と円高相場～投資家は「外」から「内」へ～
2017年4月19日	英総選挙の前倒し実施～「絶対に負けられない戦い」へ～
2017年4月17日	米為替政策報告書の読み方
2017年4月14日	週末版(依然として懸念されるユーロ圏の域内格差～顕著になる「地力の差」～)
2017年4月13日	改めて考えるポリシーミックスの在り方
2017年4月12日	試される「リスク回避の円買い」の妥当性
2017年4月11日	円相場の基礎的需給環境～ベアリススワップと対外証券投資～
2017年4月7日	週末版(ECB理事会議事要旨～鍵を握るAPPの延長可否～)
2017年4月6日	FOMC議事要旨を受けて～「B/S縮小≠ドル高」とは限らず～
2017年4月5日	真つ当な米利上げ反対論～ブレイナードからカシュカリへ～
2017年4月4日	外貨準備構成通貨の現状(2016年12月末時点)
2017年4月3日	2つの大統領令を受けて～内政の苛立ちを外交で発散へ～
2017年3月31日	週末版
2017年3月30日	ユーロ圏の物価に関する現状と展望～ECBへの影響～